

令和 7 年度

事 業 計 画



歳 入

【単位：千円、() は前年度予算額】

予 算 額	項 目
172,253 (181,318)	<p>活動資金収入</p> <p>各地区・分区及び赤十字奉仕団等の協力を得て募集する赤十字の事業資金で、個人、法人会員等から拠出される会費等からなり、令和7年度は先の金額を募集いたします。</p>
5,711 (5,518)	<p>補助金及び交付金収入</p> <p>本社主催の研修等の地域間の旅費負担を平準化するため、本社から交付されます。</p>
680 (680)	<p>繰入金収入</p> <p>管内赤十字施設合同職員研修会等の経費を、医療施設特別会計及び血液事業特別会計から繰り入れます。</p>
3,351 (3,470)	<p>雑収入</p> <p>救急法等講習会教材費、青少年赤十字各種講習会参加費、各種証明書発行等による収入です。</p>
33,008 (44,728)	<p>前年度繰越金</p>
215,003 (235,714)	<p>歳入合計</p>

歳 出

【単位：千円、（ ）は前年度予算額】

予 算 額	項 目										
25,317 (24,197)	<p>災害救護事業費</p> <p>今後発生が予測される南海トラフ地震及び、頻発する豪雨等のような不測の災害に備え、災害救護体制の強化、防災講座、救護看護師の養成並びに災害被災者に対する援護事業に要する経費です。</p> <p>1. 救護体制</p> <p>災害にあった人々を救護する業務は、日本赤十字社の最も重要な事業の一つで、不測の災害に備え、災害対策本部要員8名及び、いつどこにでも救護班を派遣できるよう、1個班につき</p> <table> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>看護師長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td><u>主 事</u></td> <td><u>2名</u></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6名</td> </tr> </tbody> </table> <p>からなる常備救護班を8個班、血液供給班2個班を編成しています。</p> <p>なお、これらの救護員については、次のとおり救護訓練及び救護研修会を実施し、救護体制の一層の充実強化を図ります。</p> <p>＜救護訓練計画＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 日本赤十字社中国・四国各県支部合同災害救護訓練（高知県開催） ☆ 高知県支部合同訓練 ☆ 愛媛県総合防災訓練 ☆ 愛媛県原子力防災訓練 	医 師	1名	看護師長	1名	看 護 師	2名	<u>主 事</u>	<u>2名</u>	計	6名
医 師	1名										
看護師長	1名										
看 護 師	2名										
<u>主 事</u>	<u>2名</u>										
計	6名										

☆ 松山市総合防災訓練

☆ 中予地区消防長会合同訓練

☆ 胴川総合水防演習

☆ 愛媛県支部災害対策本部設置訓練

<救護研修会>

☆ 中国・四国ブロック災害対策本部要員研修会

☆ 日赤原子力災害基礎研修

☆ 全国赤十字救護班研修

☆ 防災ボランティア研修会

☆ 救護研修会

☆ 地区分区担当者・防災ボランティア災害対応研修会

☆ こころのケア研修会

<臨時救護>

☆ 石鎚山御山開き

☆ 愛媛マラソン

☆ その他公共団体からの依頼での活動

2. 救護装備の整備

災害時における人員、物資及び資機材の運搬用として使用する車両を現有の車両の更新として整備します。

3. 被災者の援護

災害による全壊、流失等の被災者に対し、毛布・緊急セットの救援物資を配付するとともに、災害見舞金や災害死亡者弔慰金を贈ります。

(1) 災害見舞金

自然災害による住家の全焼、全壊、流失等の世帯に対して、一世帯につき、20,000円の見舞金を贈ります。

(2) 災害死亡者弔慰金

災害による住家の全焼、全壊、流失等による死者に対して、一名につき、20,000円の弔慰金を贈ります。

なお、上記(1)及び(2)については、県内に災害救助法が適応された場合は適応除外としています。

4. 手つなぎ防災ひろば

防災意識の向上と地域内の異なる世代の連携強化のため、青少年赤十字加盟校や赤十字ボランティア及び地域住民等が協働して、非常炊き出しや身近なものを使った応急手当等を実施し、地域の防災力とコミュニティを広げます。

5. 日本赤十字社防災教育事業

災害時においては地域における「自助」「共助」の力を高めるため、自治体や各地域において、防災・減災のための防災セミナーを開催し、地域の防災力の向上と地域コミュニティの輪を広げます。

51,454

社会活動費

(46,539)

赤十字の講習会（救急法・健康生活支援講習・幼児安全法・水上安全法）、赤十字奉仕団、青少年赤十字、巡回健康講座、高齢者生活支援事業、子育て支援事業並びに血液事業に要する経費です。

1. 生命の尊さを基調とした赤十字の講習

(1) 赤十字救急法講習

人が人や急病人に対して、いざというときに適切な手当が施せる

よう「A E Dを使用した心肺蘇生」「止血」「骨折の手当」などの正しい知識や技術について実技を中心に指導します。

また、一次救命処置の啓発の一環として、エミフルM A S A K IでA E Dを使用した心肺蘇生の体験を中心としたイベントを開催します。

講習会実施計画 120回

(2) 赤十字健康生活支援講習

加齢や病気によるからだやこころの変化があっても、自立した生活が続けられるような生活の仕方・工夫についてや、支え合う地域創りに必要な支援活動の知識や技術について指導します。

また、平均寿命の伸びとともに増え続ける認知症の方への対応や、災害時における高齢者の生活支援などの普及に取り組みます。

講習会実施計画 90回

(3) 赤十字幼児安全法講習

乳幼児期に起こりやすい事故とその予防、手当の実際にについて、看病の方法など日常生活の中で役立つ知識と技術について実技を中心に指導します。

また、災害時における乳幼児支援など、地域社会全体で子どもの命と健康を守る活動に必要な知識・技術の普及に取り組みます。

講習会実施計画 70回

(4) 赤十字水上安全法講習

水の事故を防止し、緊急時に必要な行動がとれるように「泳ぎの基本」「水の事故防止」「溺者の救助」「応急処置」などについてプールや海などの各状況に応じた知識と技術を実技中心に指導します。

講習会実施計画 10回

(5) みんなD.E防災トライアル

個人や家族、地域のコミュニティで参加してもらい、防災の講義はじめ、非常炊き出しや避難所の体験を通して、自助・共助の大切さを知ってもらうことを目的に開催します。

2. 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティアの組織であり、赤十字事業推進の主体です。

赤十字奉仕団には、

地域奉仕団 … 各地域のボランティアで組織されています。

青年奉仕団 … 社会人や学生によって組織されています。

特殊奉仕団 … 無線や救急法等、特殊技能をもった人たちによって組織されています。

の3つの分野があり、それぞれにおいてボランティア活動を繰り広げています。

令和6年度（12月31日現在）の結成状況は、

地域奉仕団 54団（内8団休団中） 11, 203名

青年奉仕団 6団（内1団休団中） 98名

特殊奉仕団 3団 289名

計 63団 11, 590名

であり、引き続き、住み良い社会づくりのため、社会福祉や青少年の健全育成等の支援活動を展開します。

また、南海トラフ巨大地震をはじめとする大災害に備え、各地域での研修会等でも使用できる災害用移動炊飯器等奉仕団用資器材を整備

するとともに、ボランティアの担い手を確保するため、支部及び各地域での行事等をとおして奉仕団広報の充実を図っていきます。

併せて、奉仕団員を対象とした研修会等を開催し、奉仕団活動の質の向上にも努めています。

3. 青少年赤十字

将来を担う青少年が、赤十字精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年自身が日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的として学校に組織され、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標として活動しています。

また、態度目標の「気づき 考え 実行する」をテーマに作成した教材の普及や青少年赤十字高校生・中学生、小学生合同トレーニング・センター、青少年赤十字研究会などの行事を実施します。

令和6年度（12月31日現在）の結成状況は、

幼稚園・保育所・こども園	51園（所）	5, 147名
小学校	161校	39, 719名
中学校	48校	11, 233名
高等学校	12校	706名
計	272校	56, 805名

であり、引き続き、未加盟校に対する加盟促進、加盟校の活動充実、指導者・メンバーの育成強化に努めます。

4. 巡回健康講座の開催

地域の方々の健康の保持増進と疫病の早期発見に役立つ知識の普及を目的に巡回している事業で、赤十字思想と衛生思想の普及・推進を

図ります。

＜内 容＞

☆ 松山赤十字病院医師・看護師等による講演・健康相談

☆ 血圧測定・検尿・体脂肪測定

実施計画 10回

5. 高齢者生活支援事業

高齢者の生活支援及び健康増進を図るため「ひだまり赤十字」を実施し、豊かで健康な地域社会を構築します。

実施計画 6回

6. 子育て支援事業

少子化が進む中で、家庭が抱え持つ育児不安やストレスを軽減し、子どもが健やかに育つように「赤十字ぬくもり子育て広場」を実施します。

実施計画 6回

7. 血液事業

献血の安定的供給ができるよう、血液業務推進に努めます。

愛媛県及び愛媛県赤十字血液センター等と連携を図り、一層の献血事業の発展に努めます。

850

国際活動費

(850) 日本赤十字社は、国内の事業に限らず、変動する国際情勢や海外の災害に対しても、人材派遣や資金援助を行い、救援活動を実施して

	<p>おります。</p> <p>当支部でも、中国・四国各県支部合同で、アジア大洋州給水・衛生災害対応キット支援事業に対する資金援助を行う予定です。</p> <p>また、大規模災害の発生時には、迅速に救援金募集を開始し、毎年12月にNHKと共同で行う「海外たすけあい」募金を引き続き行っています。</p>
500 (500)	<p>指定事業地方振興費</p> <p>大規模災害の発生時に派遣する、救護班の経年劣化著しい救護作業服の更新整備を行います。</p>
22,350 (25,396)	<p>地区分区交付金支出</p> <p>各地域における赤十字活動費として、活動資金募集実績額に応じて、地区分区へ事務費・事業費を交付いたします。</p> <p>交付率は、活動資金募集実績額の15.5%です。</p>
37,246 (36,965)	<p>社業振興費</p> <p>活動資金募集や表彰物品作成経費、運動月間等の広報に要する経費です。</p> <p>多くの皆さんに赤十字の活動を知っていただき、共感いただくため、様々な団体や赤十字奉仕団と連携し、PRイベントを積極的に実施し、SNSを活用した情報発信の強化にも努めます。</p> <p>活動資金募集については、ビックデータを活用した情報分析を行うことにより、寄付市場に沿った策を講じていきます。また、近年増加傾向にあるクレジットカード決済による寄付や遺贈・相続財産寄付につ</p>

	<p>いても積極的に獲得に向け取り組みます。</p> <p>新たな寄付者獲得として、県や市職員を対象とした職域寄付も予定しています。</p> <p>なお、既存の寄付者に対し、引き続きご支援いただけないように、赤十字サイドからの情報発信を積極的に行い、新規寄付者獲得と同時にリピート率向上にも取り組みます。</p>
2,000 (2,000)	<p>基盤整備交付金・補助金支出</p> <p>松山赤十字病院が実施する医療社会事業や、支部と病院が共催する赤十字健康大学への助成金です。</p>
5,695 (14,491)	<p>積立金支出</p> <p>災害救護活動の安定的財源や施設の整備費、並びに本社に送金する退職給与資金の積立金です。</p>
37,463 (37,667)	<p>総務管理費</p> <p>評議員会を始めとする各種会議や研修会、備品・消耗品、通信運搬に要する経費及び健康保険・企業年金保険、雇用保険等の事業主負担分です。</p>
5,770 (19,361)	<p>資産取得及び資産管理費</p> <p>支部事務所及び災害救護用倉庫の維持管理にかかる経費です。</p>

25,358 (26,748)	本社送納金支出 本社が行う国際活動資金及び国内での各種事業の経費として、活動資金募集実績額に応じ送納します。
1,000 (1,000)	予備費
215,003 (235,714)	歳出合計